

一般社団法人会津喜多方青年会議所
2020年度 事業報告書



不退転

全ての出会い、全ての経験が糧^{ちから}となる

目 次

一年を振り返って 2020年度理事長 古川 一裕	3
2020年度 事業報告 例会・事業一覧	5
委員会報告 会員研修委員会	7
組織運営委員会	8
みらい創造委員会	9
COVID-19 対策委員会	10
卒業生紹介	11
新入会員紹介	12
2021年度 理事長所信 2021年度理事長予定者 武藏 伸一郎	13
2021年度 役員・出向者名簿	16

「一年を振り返って」



2020年度 第46代
理事長 古川 一裕

日頃より一般社団法人会津喜多方青年会議所の運動・活動に対しまして、深いご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。地域の皆様に支えられ2020年度の納会を迎える事が出来ますことに深く感謝を申し上げます。本来であれば喜多方市内外より多くのご来賓のご臨席を賜り開催させていただく納会卒業式でございますが、コロナ禍による昨今の社会情勢をふまえ今年度は現役メンバーの出席に限り開催させていただく事となりました。皆様に向けて1年間の活動報告と次年度の決意を示し懇親を深める貴重な機会を設けられない事は残念ですが、これも学びの一つと前向きに捉え歩みを進めてまいります。

2020年は新たな疫病との闘いに終始した1年となりました。世界的に感染が拡大する中我々の活動は計画の見直しを迫られ3月から6月末までの例会及び事業を中止しました。日本青年会議所の開催するサマーコンファレンス・全国大会 in 札幌・世界会議 in 横浜が現地とWebでのハイブリット開催となり、福島ブロック内の諸会議も同様に開催されるなど、これまでの活動とその価値観が大きく揺さぶれる1年となりました。この喜多方市においては、飲食店を中心とした営業自粛など市民が一丸となり様々な防疫対策が講じられましたが、感染者の発生から様々な憶測が飛び交うなど難しい状況が生まれました。不安定な社会情勢が人の心に与える影響の大きさを認識させる結果ともなったのではないのでしょうか。

本年は日本中が心待ちにしていた東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、この喜多方も聖火リレーのルートとなるなど大きな関心を集めていました。会津喜多方青年会議所では、この聖火リレーを喜多方の魅力を世界に発信する絶好の機会と捉え、喜多方の伝統的な染型紙である「会津型」を利用し、聖火リレーの応援と喜多方の魅力発信を合わせた事業を進めてまいりました。開催延期に伴い事業を完了する事はできませんでしたが、伝統産業を未来へ伝え繋ぐためにどのような活動が必要かを考え、理解を深める事が出来ました。改めて聖火リレーが開催される際にはこの経験を活かし地域の魅力を世界

へ発信できると考えています。

そして長年の活動の一つである青少年育成事業もまた大きな影響を受ける事となりました。小中学校の休校措置等に伴う学習プログラム変更、接触を伴う集会への制限など大きく状況が変化しました。各地青年会議所ではWebを取り入れ事業を展開する動きも多く、我々も理事会において新しいスタイルでの事業実施への議論を進めました。しかし、この時代にこそ、人と人が直接対話する事によって得られる機会が重要であるとの強い思いから、新しい生活様式を取り入れての開催を検討しましたが、実施しない結論に至りました。この判断に対しては様々な意見があるのは十分承知しておりますが、理事会に諮り議論を進めたその過程は理事者にとって大きな糧となると信じています。

この1年間、理事会を中心に様々な課題に対し議論を進めてまいりました。これを振り返り改めて思うことは、近年これほどまで大きくそして急速に社会と個人の価値観が変化した事があったでしょうか。これまでの常識が非常識となり、想像もつかなかった生活様式がスタンダードとなった1年でした。これはコロナ禍による一時的な変化ではなく時代が転換したと理解して良いでしょう。昨日までの常識は過去のものとなりましたが、移り変わり行くもの、残すことを見誤ることはできません。作家の武者小路実篤氏は「この道より我を活かす道なし。この道を歩く」と言う一節を作中に残しました。凄まじいスピードで周囲の状況が変わり、価値観が変わり続けるこの時代に自分自身であり続けるためには、自らのこれまでの歩みを信じる以外にありません。各々が懸命に切り拓いてきた道を、未来に向けてより広く強固にすることが、地域を担う人間として今まで以上に求められる時代です。2020年度は終わりとなりますが、青年の活動に終わりはありません。この場集った仲間と共に自らを成長させこの地域をより良くしていきましょう。

最後になりますが、本年は「不退転～全ての出会い・全ての経験が糧となる」をスローガンに掲げ、会員一人一人が成長を実感できる青年会議所を目指してまいりました。当初の計画を達成した計画は多くはありませんが、激変する時代の中で我々青年が「何をしたいか」ではなく、この地域に、この移り行く時代に「何をしなければならないか」「何をすることができるか」を深く考え、会員一人一人が胸に刻む機会を得る事が出来ました。この学びを糧として2021年のさらなる成長をお約束させていただきます。今後も変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。1年間ありがとうございました。

事業報告書 2020年度 例会一覧

例会	開催日	開催場所	内容
1月例会	1月14日 1月26日	JC会館 染織工房れんが	喜多方の染型紙文化である会津型を学び、実際に型を彫り、染色を体験した。体験を通して会津型に触れることで歴史的背景を感じながら会津型への愛着を育むことができた。
2月例会	2月18日	レストラントレビ	講師に川島ゆう子さんをお招きし、青年経済人としてマナーに沿った振る舞いや常識を身につけることができた。挨拶のポイントや名刺交換、敬語の使い方など、社会人としての基本マナーを再確認することができた。また、懇親会では食事のマナーで話が盛り上がり、青年経済人としての品格がさらに向上した。
3月例会	—	—	新型コロナウイルス感染防止のため中止
4月例会	—	—	〃
5月例会	—	—	〃
6月例会	—	—	〃
7月例会	7月21日	JC会館	定款・諸規則第14条、15条に基づき、理事長・監事選出委員の選出を行った。 COVID-19対策委員会による感染予防の基礎知識を学び、非常事態下でのLOMの運営基準を共有することで、コロナ禍での運営方針を明確にすることができた。
8月例会	8月18日	JC会館	講師に歴代理事長の鈴木一夫先輩、唐橋裕幸先輩をお招きし、JC活動の魅力を語っていただいた。当時の活動の思いや、自身が理事長の時に経験した事など、コロナ禍で活動が制限される今だからこそJC活動の魅力を知ることができた。
9月例会	9月6日	江川コントラクター・ もりっこの里 中山森林公園	コロナ禍で活動が制限される中、会員のモチベーション向上を目的にアウトドア例会を実施。アスパラガスの収穫体験や収穫した野菜を使ってBBQをしながら会員同士の絆を深めることができた。また、夢広場と題し、焚き火を囲んで会員一人一人が自分の夢や目標を言葉にして語ることで、心を通わせることができた。
10月例会	10月20日	JC会館	植松努氏の「思うは招く」を視聴し諦めない心を学んだ。動画視聴後に自分自身の人生年表を作成し、今までの成功体験、失敗体験を振り返り、これからの夢やヴィジョンを考える機会になった。作成後に人生年表を発表し、夢やヴィジョンを共有することで、会員同士の絆がさらに深まった。
11月例会	11月17日	JC会館	講師に沼田宏之君をお招きし、日本JC公認プログラムであるVMVセミナーを実施した。JCとは何なのか、どこから、何のために始まったのか、JCの意味や本来の目的を再確認できる内容だった。また、JCに入会して間もないメンバーにとってはJCがどんな組織かを知る機会になり、それぞれがJCの本来の目的を共有することができた。
12月例会	12月5日	大和川酒蔵 北方風土館 昭和蔵	今年度は例年と異なり、納会の中で褒賞者の発表を行った。今回は活動が難しい中でも、様々な企画を行い積極的に行動したメンバーが多く受賞した。

褒賞者一覧

最優秀会員賞

優秀会員賞
最優秀新人賞
特別賞

岩田 悠二郎 君

瓜生 真吾 君、佐藤 健太郎 君
武藤 隆弘 君
会員研修委員会、組織運営委員会

事業報告書 2020年度 諸事業一覧

事業名	開催日	開催場所	内容
選挙教育事業「みらいく」	2月3日	福島県立 喜多方東 高等学校	2019年度に喜多方東高等学校で事業を開催し、当時の生徒の政治に対する興味が向上したことを受けて、今年も開催の依頼があった。政治に対する考え方や選挙の仕組みなどをわかりやすく解説し、実際に候補者を立て、投票をすることで政治や選挙に対する意識を高めることができた。
蔵のまち喜多方冬まつり 全国ラーメンフェスタ2020	2月8日 2月9日	喜多方プラザ 文化センター	ラーメンフェスタのボランティアスタッフとして来場者の誘導などの支援を行なった。
「会津型の利活用推進事業」 東京オリンピック・パラリンピック 聖火リレー応援企画	3月	市内 商業施設等	東京オリパラへ繋ぐ聖火リレーを応援する為、会津型を施したインスタグラムのフレームを作成した。市内の商業施設に置いていただいて、喜多方のPRを図る予定だったが、大会の延期により、フレームのお披露目は断念する事になった。今回の事業はゴールを迎える事が出来なかったが、聖火リレーはまた必ず喜多方に来ると信じて、次年度にバトンを繋いでいきたい。
創立記念事業	7月1日	新宮熊野神社 長床	新宮熊野神社での奉仕活動を行なった。多数のOBにも参加していただき、交流を深めることができた。
2020喝祭きたかた	11月3日	商店街通り	運営スタッフとして参加。主に会場設営と抽選会受付を担当し、コロナ禍での開催でソーシャルディスタンス係も担当した。また、地域の方や他団体との交流を深めることができた。
納会・卒業式	12月5日	大和川酒蔵 北方風土館 昭和蔵	今年度は社会情勢を鑑みて、新型コロナ対策を施して、OB会長と会員のみで実施した。例年と異なる内容となったが、しっかりと1年を締めくることができた。また、卒業式では、3名の卒業生に感謝を伝え、お祝いすることができた。

1月例会



2月例会



9月例会



12月例会



納会・卒業式



インスタフレーム作り



2020年度 会員研修委員会事業報告

委員会スローガン「カッコイイ青年経済人になろう」

会員研修委員会 委員長 岩田 悠二郎

2020年は、私自身にとって青年会議所活動への取り組みが変化した一年でした。

入会して数年間は青年会議所活動に魅力を感じずに、例会の参加や事業の参加を含めても、いい加減に参加しておりました。しかし、2019年に私の気持ちが変わる出来事がありました。それは、台風19号災害の支援活動です。私もこの支援活動に参加していましたが、佐藤雅一理事長を始めとした当青年会議所メンバーやOBの一連の行動を見て、もう一度青年会議所活動と向き合う気持ちになっておりました。

また、2019年に勧誘に伺った3名の有望なメンバー入会も、私自身の青年会議所活動に向き合う前向きな気持ちを後押ししてくれました。そのような心持の折に古川理事長から委員長の打診を頂き、職を受けさせていただきました。

本年度の会員研修委員会は「カッコイイ青年経済人になろう！」をスローガンに委員会活動を行いました。結論からいうと委員会活動としては50点です。理由は、会員研修委員会の成果がでるのは、共に活動したメンバーが、地域や青年会議所のリーダーとして能力を発揮した時に、創めて委員会の目的の達成をしたと考えられるからです。今年度、例会等で学んだ気づきを活かし、本年度の委員会メンバーがより良い会津喜多方青年会議所の未来を創造してくれることを楽しみにしております。そして今年の委員会メンバーから当青年会議所の理事長を多く輩出できることを願っております。

委員会メンバーの皆さん、ありがとうございました。皆さんのお陰で委員長の職を全うできました。共に明るい豊かな社会の実現を目指して青年会議所活動に勤めましょう。

2020年度組織運営委員会活動報告

委員会スローガン「ひとつひとつ！地を貫き大樹を支えよ！」

組織運営委員会 委員長 瓜生 真吾

我々、組織運営委員会は組織の土台を支えたいという思いから“ひとつひとつ！地を貫き大樹を支えよ！”とスローガンを掲げ、4つの委員会活動を行ってきました。

1. 総会の運営・企画

例年では7月に臨時総会が開催されますが、今年度は15年ぶりに次年度理事長立候補者の立候補がなかったため、9月に臨時総会と通常総会を開催いたしました。総会の冒頭で古川理事長が「次年度立候補者が出ない事は、今後も必ずあり得る事です。このような状況にも対応できる力を身に付けましょう。」と挨拶されました。我々も未経験な事に戸惑いもありましたが、選挙管理委員会と連携を取りながら総会を無事に運営する事ができました。



2. 例会の開催

1月例会では会津型の型掘り体験を行いました。会津型の理解力をより深める事が出来ました。7月例会では新型コロナウイルスの現状と今後の対策の勉強会を実施しました。混乱時における正確な情報の大切さを再確認しました。9月例会では、地域食材の収穫体験と収穫した食材を使用したBBQを開催しました。地域への感謝の気持ちとメンバーとの絆を深めあう貴重な時間となりました。



3. 会津型の利活用推進事業の実施

2020年3月は東京オリパラへ繋ぐ聖火リレーが喜多方にも来る予定でした。我々は聖火リレーを応援する為、会津型を施したInstagramのフレームを作成しました。市内の商業施設に置いていただき、お客様に使用していただく事で喜多方のPRを図る予定でしたが、大会の延期によりフレームのお披露目は断念する事になりました。今回の事業はゴールを迎える事が出来ませんでした。しかし、聖火リレーはまた必ず喜多方に来ると信じ、次年度にバトンを繋いでいきたいと思います。



4. 対内紙の発行



会員や会員の家族、OBの諸先輩方へ向けて、例会で学んだ事や地域の魅力を対内向けの記事として、年6回に渡り報告してきました。その経験の中で苦慮した事は、我々の想いが読み手に正しく伝えられる記事にするという事でした。対内紙の作成を通して、人に伝える記事を作る事の難しさを経験し、最後までやり遂げた事で、自分に自信を持つ事が出来るようになりました。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により従来の活動や計画していた活動を思うように実施する事が出来ませんでした。この先行きが見通せない状況は今後も続いていきます。しかし、こんな時だからこそ、我々会津喜多方青年会議所は地にしっかりと足をつけ、自分達が出来る事をひとつひとつ丁寧に行っていく必要があると私は考えます。今年度学んだ事を生かしてこの不透明な情勢をみんなで乗り切っていきましょう。

2020年度みらい創造委員会活動報告

委員会スローガン「温故知進～古きを知り新しきを突き進む～」

1. 選挙教育事業「みらいく」

開催日：2月3日（月）／ 開催校：喜多方東高等学校
「みらいく」とは…

小中学生に民主主義の価値を伝え、選挙において投票を行うことの意義や重要性を理解してもらい、将来、成人になり選挙権を有した時に、積極的な政治参画を行うことを促す教育プログラムです。

2016年度より、高校生も対象とし開催してきました。

今年度は、1校のみの開催となりましたが、地域の未来を担う子どもたちに、政治や選挙の大切さを伝えることができました。



2. 委員長の交代

新谷大士君が喜多方を離れることになり、7月より、齋藤がリリーフしました。委員会メンバー一同、新谷君の思いを引継ぎ、事業開催のため準備を進めていましたが、断念することになり、残念でなりません。

3. 例会の開催

4. 次代を担う人財の育成事業

5. 社会福祉法人喜多方市社会福祉協議会との連携事業

※年当初より計画を練ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は中止といたしました。

6. 納会・卒業式

社会情勢を鑑みて規模を縮小して開催しましたが、次年度への引継ぎ、卒業生に感謝の意を伝えることができました。次年度は例年通りに地域の皆様や青年会議所関係者をお招きして開催できることを願っています。

改めて、卒業生の皆さま、おめでとうございます！



青年会議所は「みらいを創造」する団体です。本年度の全ての出会いと経験を糧にして、次年度以降も歩みを止めず、活動を続けてまいります。

2020年度みらい創造委員会

委員長 新谷大士／齋藤政和 副委員長 遠藤葉里寿 委員 羽鳥拓貴・上野彰雄・佐藤周一郎

2020年度 COVID-19対策委員会 事業報告

委員会スローガン「コロナ禍からコロナ可へ」

COVID-19対策委員会 委員長 岩田 悠二郎

本年度に発生した新型コロナウイルス感染症は、中国武漢から世界に瞬く間に広がり、グローバル社会の脆弱性と「今日という日」の貴重性を今も世界に問い続けております。

本委員会は特別委員会として、私と経験豊富な副委員長を中心とし、「コロナ禍の中で何か活動できないか」という主体的な働きかけから発足に至りました。アンケート調査による喜多方の経済への影響の調査やメンバー間の物資の供給、不要なマスクの寄付活動等を想定しておりました。

結果として想定していた活動のすべては行うことはできませんでしたが、委員長として関わらせて頂き、大きく3点ほど学ばせて頂きました。その内容を踏まえて事業報告と致します。

1. 主体的に動く。

コロナ禍の際は、朝からメンバーから新聞記事の情報の共有があり、主体的に情報を掴みに動くことの大切さを身に染みて感じました。当事者意識をもって主体的に動く…言葉では簡単ですが、「メンバーの皆様できていますか?」「ネガティブな言葉を吐き出し、受動的に活動していませんか?」

2. 自分以外を考える。

今回の新型コロナウイルス感染症や災害支援の際は自分以外の事を考えなくてはなりません。そのような心構えは有事の際だけでなく、平常時も大切にしなければなりません。常に利己ではなく利他の目線を持つ大切さを学びました。

3. アプローチを変えてみる。

コロナ禍は、物事を多角的に正しく見ることの重要性を問っております。「ソーシャルディスタンス」は、元来の我々のコミュニケーションが言語外の部分に大きく依存していたことを目下に晒しました。私はこのような時勢だからこそ普段の倍以上に他社に感謝や「思い」を素直に伝えようと悟りました。他面では、対面でのコミュニケーション機会の減少は、私にとって根拠のないデマや噂話の無価値を知る機会になりました。過度な情報社会だからこそ、真意を理解する必要性を感じました。

世界中で甚大な被害が出た一方で、我々の社会にコロナ禍が問うた問題は非常に多岐にわたります。皆様も様々な事を見直す機会になったのではないのでしょうか。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、志半ばでご逝去された世界中の皆様に、哀悼の意を示すとともに世界が愛と平和に満たされることを祈念し、事業報告の結びと致したいと思います。

2020年度 卒業生

 岩田 祐樹 (2004年度入会) 会員番号308	年度 : 委 員 会	出 向 歴
	2004 : 指導力開発委員会	福島ブロック協議会 福島の力アカデミー委員会
	2005 : 指導力開発委員会	
	2006 : 総務広報委員会	
	2007 : JC力発信委員会	
	2008 : 会員研修委員会 副委員長	
	2009 : 事務局長	
	2010 : 次世代創造委員会 副委員長	
	2011 : 未来創造委員会 委員長	
	2012 : JAYCEE力発信委員会 委員長	
	2013 : 副理事長	
	2014 : 総務委員会 副委員長	東北地区協議会 東北ゼミナール委員会
	2015 : 青少年育成委員会	
	2016 : 指導力開発委員長 副委員長	
	2017 : 青少年育成委員会 副委員長	
	2018 : 青少年育成委員会 副委員長	
	2019 : 監事	
	2020 : 監事	

 佐藤 雅一 (2007年度入会) 会員番号323	年度 : 委 員 会	出 向 歴
	2007 : JC力発信委員会	福島ブロック協議会 組織拡大推進委員会
	2008 : 会津喜多方ISM発信委員会	
	2009 : 広報渉外委員会	
	2010 : 次世代創造委員会 委員長	
	2011 : 総務委員会 委員長	東北地区協議会 地域連携委員会
	2012 : 組織活性化委員会 副委員長	
	2013 : 青少年育成委員会	
	2014 : 社会開発委員会 副委員長	東北地区協議会 総務委員会
	2015 : 指導力開発委員会 委員長	
	2016 : 総務委員会 副委員長	福島ブロック協議会 ブロック大会実行委員会 福島ブロック協議会 組織連携委員会 委員長 福島ブロック協議会 総務委員会 幹事
	2017 : 指導力開発委員会 副委員長	
	2018 : 副理事長	
	2019 : 理事長	
	2020 : 直前理事長	福島ブロック協議会 副会長

 新谷 正樹 (2017年度入会) 会員番号378	年度 : 委 員 会	出 向 歴
	2007 : JC力発信委員会	福島ブロック協議会 福島のアカデミー委員会
	2008 : 事務局長	
	2009 : 人材開発委員会 副委員長	福島ブロック協議会 総務委員会 幹事
	2010 : 人材開発委員会 委員長	
	2011 : 総務委員会	
	2012 : 笑顔溢れるまちづくり委員会	
	2017 : 青少年育成委員会	
	2018 : 指導力開発委員会 副委員長	
	2019 : 青少年のヒーロー委員会 副委員長	福島ブロック協議会 ふくしまの未来創造委員会
	2020 : 組織運営委員会 副委員長	

2020年度 新入会員



むとう

たかひろ

武藤 隆弘

会員番号 : 386

生年月日 : 1988年1月31日

勤務先 : 武藤合名会社 (淀屋)



さとう

しゅういちろう

佐藤 周一郎

会員番号 : 387

生年月日 : 1981年2月21日

勤務先 : 有限会社 佐藤石材店



たかうち

ひろき

高内 広樹

会員番号 : 388

生年月日 : 1997年2月13日

勤務先 : 株式会社 福島民報社



しおだ

たかゆき

塩田 誉幸

会員番号 : 389

生年月日 : 1990年4月18日

勤務先 : 株式会社 Next Enter Prise

2021年度 理事長所信



2021年度 第47代
理事長予定者 武蔵 伸一郎

はじめに

日本の近世を振り返ると、戦後復興から奇跡と称された高度経済成長を遂げ、GDP世界第2位の経済大国に昇りつめました。昭和時代は、多くの社会問題に直面しました。平和達成の祈りが込められた平成の世でも、バブル経済の崩壊からの「失われた20年」、東日本大震災など社会の根幹を揺るがす数多くの国難に見舞われました。その度に日本人は、逆境を跳ね返し強靱な国家へ日本を進歩させてきました。今を生きる私たちは、挫けない心で前進してきた先人たちのように、未来に向かって歩み続ける必要があります。

令和の時代が幕を開け、日本社会は、次代を迎えるべく歩みを進めていましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により政治、経済、文化、教育とあらゆる分野において、立ち行かない状況に陥りました。この問題の先行きはいまだ不透明ですが、現状を見定め、真摯に向き合い、一致団結して新たな次代を我々の手で築いていかなければなりません。

これまでの地域を築き上げた先人の努力を尊び、責任を持って地域の希望を描き、仲間とともに明るい豊かな社会を築き上げていきましょう。自信を持ち、社会から必要とされ、子どもたちの憧れの存在となるために青年会議所活動・運動に取り組みしましょう。

【挫けない心】

会津喜多方青年会議所には、先輩方の築いてきた46年の歴史があります。先輩方は、どんな困難があっても挑み続けてきました。私たちは現在の活動を通してその想いを引き継ぎ、次代に繋いでいかなければなりません。

私は2014年の入会以来、様々な例会や事業に携わってきました。私が責任者となり事業をまとめる立場の時には、「必ず成功させなければならない」という重圧に押しつぶされてしまいそうになり、何度も逃げ出したいという思いに駆られたことがあります。しかし、同じような場面でも常に前を向き挑戦している先輩方の姿を幾度となく目にしてきた私は、「逃げてはいけません。今、頑張らないと明日はない。」と強く自分に言い聞かせ、先輩方の熱い想いと指導に応えたいという気持ちから、責務に立ち向かってきた経験があります。

その経験を通して、青年会議所活動で学ぶべき最も大切なことは「挫けない心」を育むことだと私は考えます。青年会議所活動・運動に取り組む中で、時に大きな壁が目の前に立ちふさがる場合があります。しかし、決して逃げずに立ち向かうことで「挫けない心」を育むことに繋がると信じています。その想いを次代へ繋げるためにも、決して諦めず、どんな困難にも立ち向かっていきましょう。

【描く希望】

文部科学省の資料によると、現在の日本の若者・子どもたちの特徴として、基本的な生活習慣の乱れ、自制心や規範意識の低下、人間関係形成力の低下、諸外国と比べ自尊感情が低く将来への夢を描けないことが指摘されています。そんな子どもたちに私たちは何を伝えることができるでしょうか。

会津喜多方青年会議所はこれまで様々な事業を開催し、近年では小中学生を対象に、地域の歴史や文化を学び、自らが地域の魅力を発信できる人財を育む「喜多方ちびっ子コンシェルジュ」を行いました。また、若年層を対象に、選挙の説明と模擬公開討論会を通して、政治参画意識を醸成する「みらいく」も主な事業として行ってきました。どちらも思いが詰まった事業でしたが、コロナ禍により新たな事業展開を検討しなければならなくなりました。

私たちが今、すべきことは明るい「希望を描く」ことの出来る「未来」を子どもたちに魅せていくことです。あらゆる可能性を模索し、輝く「未来」を信じ、私たち自身が行動することで子どもたちの指針となりましょう。

【柔軟で厳格な組織運営】

青年会議所は、40歳までの青年経済人の組織であり、単年度制ですべての役職が代わる特徴を持っています。毎年新しい役割を経験することで個人の成長を促し、組織を常に新しい状態に出来ることが青年会議所の一つの強みです。しかし、組織が新しくなるということは、一年間を通じて作り上げられた組織の運営体制が変わるということです。このような状態の中、私はこれまで事業構築に注力するあまり組織運営が疎かになり、組織としての力を発揮できないという場面を見てきました。組織が生まれ変わっても組織としての力を維持するためには、一人ひとりが組織の役割や目的を理解し、単年度制という仕組みに影響されない強い組織づくりが必要です。

強い組織となるためには、厳格な運営を心掛ける必要があります。青年会議所は、自らが財務管理を行う団体です。そのため、事業や例会を行う際には事業費を細かく確認し、予算が正しく使われているかを厳しく見定めなくてはなりません。また、地域に向けて発信する事業や情報に対しては、特に言葉一つ、文字一つをきちんと確認し、細心の注意を払っていかねばなりません。なぜならそれらは、組織の「質」を問われることになるからです。一つひとつの行いを疎かにしないことが、厳格で強い組織へと繋がっていくことになります。

この先も、会津喜多方青年会議所が地域に存在すべき組織であり続けるために、厳格な運営を心掛けながらもその時に応じた判断が出来る柔軟な対応力が求められます。自分たちが目指すべき目的へ歩み続け、次代を切り拓きましょう。

【防災・減災への意識向上】

私たちの活動する地域は比較的災害の少ない地域と言われていますが、自然災害はいつ起こるのかわかりません。日本全体に目を移すと、多様な自然災害が発生しており日本全体に影響を及ぼすような大地震の発生も示唆されるなど、まったく油断ができません。会津喜多方青年会議所は、阪神淡路大震災、新潟中越沖地震、東日本大震災などの大災害、県内で

発生した豪雨災害時には、募金活動や物資の提供は勿論、いち早く現地へ赴き復旧を後押ししてきました。その活動は貴重な経験ですが、私たちだけでは災害に対応する力は限られています。

2019年4月1日に、社会福祉法人喜多方市社会福祉協議会と会津喜多方青年会議所は、災害時相互支援協定を結びました。この協定は、災害発生時に共に手を取り合い、効果的に地域を支援するためのものです。互いの経験と知識を合わせれば、いざという時、臨機応変な救援活動が出来ると考えます。そして、その効果をより高めるために、平時から防災・減災の意識を高くもつことが必要不可欠です。

地域を守る活動を、私たち若い世代が率先して考えていかなければ、緊急時、家族や地域の人々を守ることが出来ません。私たちが防災・減災の意識を高く持ち、その意識を地域へ伝播させ、地域と一体となって取り組んでいきましょう。

おわりに

1975年、この地域に変革を求めた88名の志ある青年たちは「我々青年は 個人と社会のいかなるかを認識し 集う者手を携え 自己の修練を通し 的確な判断を養い 郷土発展の担い手となることを誓う」の宣言のもと、社団法人会津喜多方青年会議所を創立いたしました。先人から紡がれてきた想いを受け継ぎ、私たちは次代に向け新たな一歩を踏み出さなければなりません。

2021年度は、会員数20名でのスタートとなります。これからも、会津喜多方青年会議所が歩み続けるためには、新たな仲間が必要です。私たちの運動は、多くの仲間がいなければ大きく展開することが出来ません。共に活動する仲間を増やしましょう。そして、青年会議所の運動を地域に広めていきましょう。

<2021年度 スローガン>

歩みを止めず
次代を切り拓け！

2021年度 役員等一覧

理 事 長 武藏 伸一郎

直前理事長	古川 一裕	委 員 長	佐藤 健太郎
副理事長	白水 和也	委 員 長	武藤 隆弘
副理事長	鈴木 康浩	委 員 長	齋藤 政和
専務理事	中野 拓実	副委員長	遠藤 葉里寿
事務局長	瓜生 真吾	副委員長	塩田 誉幸
監 事	渡部 源一郎	副委員長	高内 広樹
監 事	星 毅		

出向者一覧

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会

アカデミー委員会	委 員 長	岩田 悠二郎
	総括幹事	佐藤 正治
	委 員	塩田 誉幸
	委 員	高内 広樹
福島の未来創造委員会	委 員	白水 和也
ブロック大会実行委員会	委 員	瓜生 真吾
組織連携推進委員会	委 員	鈴木 康浩
総務委員会	委 員	上野 彰雄